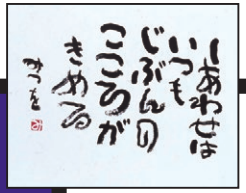
ON!

アート、あふれる街
大丸有

Old but New
伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌



2009 AUTUMN
018

この街で、アートにふれる

大丸有を歩くと、街のいたるところでアートに出会える。
人物のブロンズ像があるかと思えば、石のオブジェがあり、
ビルの壁面をみればユニークなアートワークが目に飛び込む。
そして、ショーウィンドウはミニギャラリーになっていて
またある時は、実物大のカラフルな牛が街中を闊歩する。
しかも、そればかりではない。ビルの中には、
気軽に立ち寄れるギャラリーがそこかしこにあり、
本格的な美術館も用意されている。
モダンアートから古典的な正統派まで
東洋から西洋まで
有楽町から大手町まで
この街は巨大なアートギャラリーなのだ。

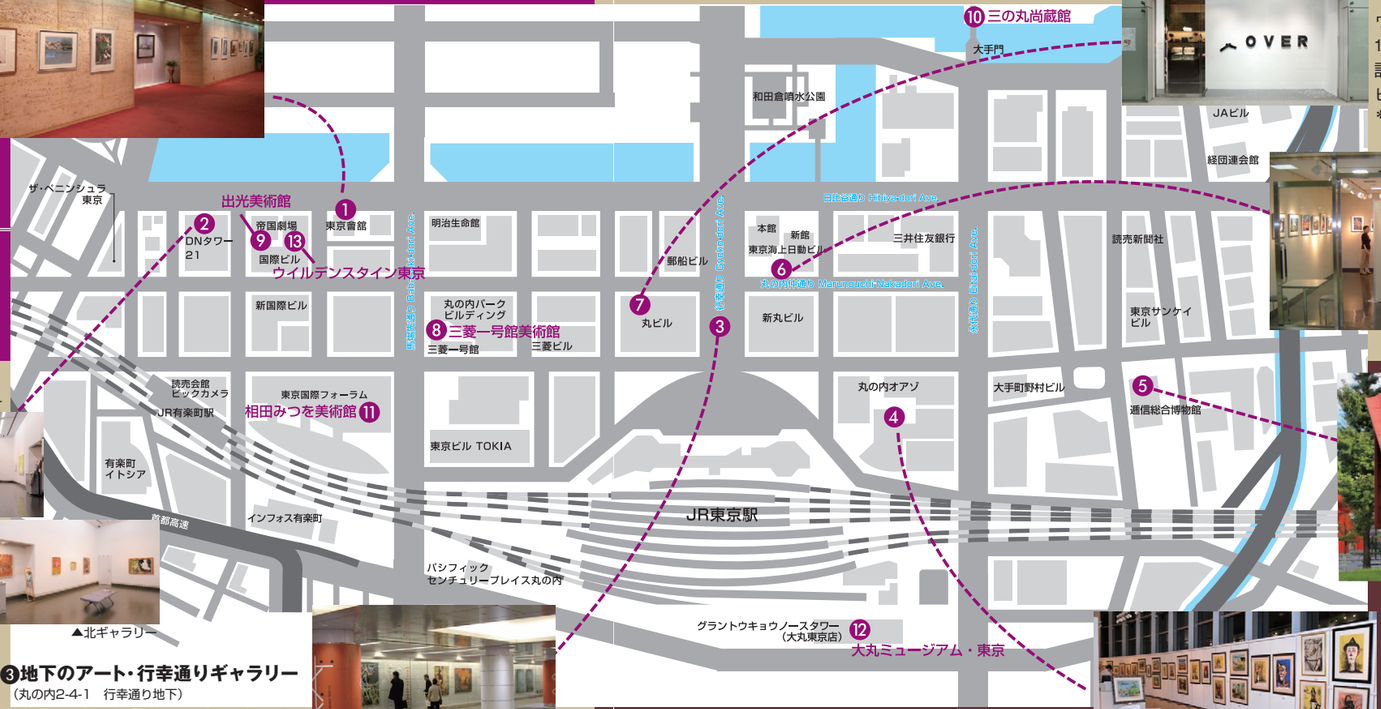
【表紙の写真】
右上より、「画家の息子」(ヴァン・ドンゲン作　1943年)、「Afternoon」(峯田義郎作　1984年　丸の内ストリートギャラリー)、「ディヴァン・ジャポネ」(アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック作　1893年　三菱一号館美術館蔵)、「吉野龍田図屏風(左隻)」(桃山時代　出光美術館蔵　「ユートピア ―描かれし夢と楽園―」にて展示)、「相田みつをの肉筆」(相田みつを美術館蔵)。

丸の内ストリートギャラリー:1972年より毎年テーマを決めて、財団法人彫刻の森美術館の所属作品を丸の内仲通りで1年間展示している。37回目になる今年は2001年以降の作品のなかから、人気の高かった14作品を展示している。

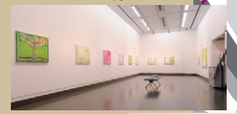
❶レストランのアート・東京會舘ギャラリー

(丸の内3-2-1東京會舘2F　TEL.3215-2111)

吹き抜けロビーの2階回廊がギャラリースペースになっている。月替わりの企画展に加え、さまざまなジャンルの作品が常設されていて、購入も可能。



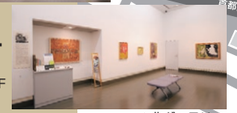
▼南ギャラリー



❷お濠端のアート・第一生命ギャラリー

(有楽町1-13-1
DNタワー21第一生命本館1F
TEL.050-3780-3242)

第一生命日比谷本社1階、南ギャラリーと北ギャラリーからなり、現代美術の鑑賞とともにこの街を訪れる人たちの憩いの場にもなっている。



▲北ギャラリー

❸地下のアート・行幸通りギャラリー

(丸の内2-4-1　行幸通り地下)

行幸通りの地下、長さ220mものガラスショーケースのスケール感を活かし現代アートから立体物までさまざまな展示を楽しめる。

❼ショーウィンドウのアート・H.P.FRANCE WINDOW GALLERY

(丸の内2-4-1丸ビル1F　TEL.3240-5791)

ウィンドウの中をギャラリーにするというユニークな試みで、1〜2ヵ月ごとに作品が入れ替わる。写真は、一番左の時計が3時になると、LOVERという文字が完成して照明がピンクに変わり、紙吹雪が舞うというインスタレーション。

＊「3時のはかなごと」(Poh Wang作　撮影／Keizo Kioku)

❻アマチュアのためのアート・トウキョウマリンニチドウギャラリー

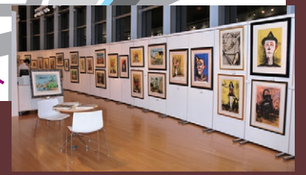
(丸の内1-2-1東京海上日動ビル新館
TEL.6212-3450)

アマチュアの個人・グループの方々の芸術作品の発表の場として開設。いままでに600を超える個人や団体が利用し、10万人以上の来場者を数えるという。

❺屋外のアート・大丸有の路上アート

ていぱーくをはじめ、東京サンケイビル、丸の内仲通り、大手町ファーストスクエア、三菱商事ビル、東京国際フォーラム等々、この街のそこかしこでパブリックアートに出会える。

＊写真は通信総合博物館ていぱーく(大手町2-3-1 TEL.3244-6811)前にある「陽甲」(清水九平衛作)



❹本屋さんのアート・丸善・丸の内本店 4Fギャラリー

(丸の内1-6-4丸の内オアゾ　TEL.5288-8881)

丸善・丸の内本店ではアート作品や企画展示をするギャラリーを併設。シャドーボックスに関する日本で初めての全国規模の展覧会を開くなど企画の面白さが評判。

＊年内はカレンダーフェアを開催。2010年1月2日からは恒例の中島潔原画展を開催。

三菱一号館が建てられた時代性を意識した近代美術と現代を結ぶ美術館

❽三菱一号館美術館

（丸の内2-6-2　TEL.5777-8600＜ハローダイヤル＞）

創建当時の姿に可能な限り忠実に復元した三菱一号館。3階南側中央石階段の手すりは一部当時のものを使用、銀行営業室を再現した部屋はカフェになっている。
（撮影／ホンマタカシ）

「マネとモダン・パリ」より「すみれの花束をつけたベルト・モリゾ」（エドゥアール・マネ 作 1872年　オルセー美術館蔵）
©RMN（Musée d'Orsay）/ Hervé Lewandowski / distributed by DNP art com

三菱一号館美術館
開設準備室副室長
鬼柳　求

1894年（明治27年）に建てられた、丸の内最初のオフィスビルが「三菱一号館」です。それから百余年、創建当時と同じ230万個の赤煉瓦を積み上げ、残された設計図面や解体時の保管部材を使用することで、可能な限り忠実に当時の建物を復元しました。その建物が、来年4月に三菱一号館美術館として生まれ変わります。当館は、「三菱一号館」との同時代性を意識しながら、いまという時代にクロスした形で各種展覧会を企画していきます。その第一弾となる開館記念展（2010年4月6日～7月25日）では「マネとモダン・パリ」と題し、近代都市パリと画家という新たな視点からマネの全貌を捉えていきます。また、これに先駆け三菱一号館竣工記念として「一丁倫敦と丸の内スタイル展」を2010年1月11日まで開催しています。ここでは、丸の内の歴史と三菱一号館復元の軌跡を紹介していますので、丸の内が歩んだ時代の息吹を体感していただくことができると思います。

東洋古美術が体系的にまとまっている貴重な美術館お濠を臨むロケーションが外国人にも人気

❾出光美術館

（丸の内3-1-1　TEL.5777-8600＜ハローダイヤル＞）

「麗しのうつわ―日本やきもの名品選―」より「色絵芥子文茶壺」（野々村仁清作　江戸時代前期　重要文化財　出光美術館蔵）と、「ユートピア―描かれし夢と楽園―」より「遊鶴図屏風」（狩野永納作　江戸時代　出光美術館蔵）

出光美術館
学芸課長代理
八波浩一

当館は出光興産創業者の出光佐三が蒐集した美術品が基本になっています。日本・中国を中心とした東洋古美術が体系的にまとまっているのが特徴で、収蔵品は国宝2件、重要文化財51件を含む1万件におよびます。とくに、仙厓や唐津焼のコレクションは充実しており、当館の収蔵品なくして展覧会を行うことができないといわれるほどです。こうした収蔵品のなかから毎回テーマを絞り、年6～7回の展覧会を開催しています。12月20日までは「ユートピア―描かれし夢と楽園―」と題し、日本人が想い描いてきた“夢”や“楽園”のイメージを読み解いていきます。次回「麗しのうつわ―日本やきもの名品選―」（1月9日～3月22日）では、日本陶磁の名品が一堂に会します。また、併せて見ていただきたいのが世界的にも貴重な陶片展示室です。北京の故宮博物院から寄贈されたものも含め、中国・日本の主だった窯の陶磁器が網羅されており、やきものの新たな魅力を発見できるはずです。

皇室に代々受け継がれた美術品を展示公開

⑩三の丸尚蔵館

（千代田1-1皇居東御苑内　TEL.5208-1063）

1989年6月、皇室に代々受け継がれた絵画・書・工芸品などの美術品類が国に寄贈された。これら美術品を、環境の整った施設で大切に保存・管理するとともに、調査・研究を行い、併せて一般にも展示公開することを目的としてつくられたのが三の丸尚蔵館だ。1992年9月に皇居東御苑内に建設され、翌年11月3日に開館。現在約9,500点の美術品類を収蔵している。

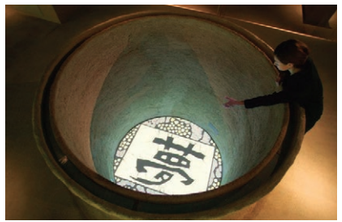
現在、御成婚50年・御即位20年記念特別展「両陛下ー想い出と絆の品々」の第3期「御日常にゆかりの品々」（2009年12月13日まで）を開催中。
「唐獅子図屏風」（狩野永徳作 16世紀　三の丸尚蔵館蔵）

鑑賞後の余韻が心地よい、都心のオアシス

⑪相田みつを美術館

（丸の内3-5-1東京国際フォーラムガラス棟B1　TEL.6212-3200）

作品鑑賞に1時間、鑑賞後の余韻に浸りながら過ごすのに1時間という意味で、「人生の2時間を過ごす場所」がコンセプト。館内は相田みつをが思索にふけり散策した、栃木県足利市の八幡山古墳群をイメージし珪藻土を使用。第一ホールと別館の第二ホールからなり、7つの展示室と、相田みつをの生前の制作シーンを上映するビデオルーム、再現したアトリエ、カフェなどがある。入場無料のミュージアムショップを併設。



本をなぞると相田みつをの書が現れる「電子ブック」、井戸に書が浮かぶ「電子井戸」（写真左）など、電子機器を活用したコーナーもある。

いまでは貴重な存在となったアートする百貨店

⑫大丸ミュージアム・東京

（丸の内1-9-1 大丸東京店10F　TEL.3212- 8011）

年内の展覧会は終了。次回は2010年1月27日～2月8日まで内藤ルネ展を開催。
「ジュニアの日記（1960年）」
（内藤ルネ作　1959年）

1983年に大丸梅田店にミュージアムを開館し、それに続き直営店すべてに設置。大丸ミュージアム・東京では、年に数回の企画展を開催している。これからの芸術の方向や表現の仕方を情報発信するため、有名な古典作品だけでなく、現代アートも積極的に取り上げているのが特徴。80～90年代にもてはやされた百貨店ミュージアムも今では数少なくなり、ショッピングや仕事帰りに気軽に立ち寄れる貴重なアートスポットとして人気だ。

世界で最も信頼と権威のある画商のひとつ

⑬ウイルデンスタイン東京

（丸の内3-1-1国際ビル1F　TEL.3211-7537）

「画家の息子」
（ヴァン・ドンゲン作　1943年）

ウイルデンスタイン商会は、1875年に創立以来、世界の美術品を取り扱い、主要な美術館やコレクターを顧客とする、世界で最も信頼と権威のある画商のひとつ。パリに研究財団を持つほか、ニューヨークと東京に店を構えており、東京店は、開設以来約40年、全国の国公立美術館や私立美術館にグレコ、ゴヤ、マネ、ルノワール、セザンヌ、ロダン、ムーアなど数々の美術品を納め、主な展覧会に協力している。絵画、彫刻のほかには版画、写真なども扱っている。

INTERVIEW

大丸有は街全体がアートです

丸の内ウォークガイド　ツアーリーダー
清水　秦

私自身がもともとこの街が大好きで、その素晴らしさを多くの人たちに発信したいと思い、このウォークガイドの仕事をしています。丸の内ウォークガイドは3つのコースがあり、そのうちのひとつが「アートあふれる街のお散歩」です。これは、丸の内から有楽町にかけて、さまざまなアートや仲通りの賑わいを楽しめるコースです。

「ミノタウロス」(ディーン・J・ミーカー作 1988年　丸の内ストリートギャラリー)

この街の魅力は、なんといっても「街全体がアート」であることです。多くのギャラリーや美術館があり、明治以来の歴史を重ねた建造物と最新のビルディングが建ち並ぶ街の景観、歩道に植えられた花々、そして世界のトップクラスのブランドが連なるショッピング街・・・・。これらが紡ぎ出す独特の空間は、世界でも類を見ないのではないでしょうか。さらにもうひとつの構成要素として、この街で働く人々のファッションやさまざまな外国の方々も欠かせません。四季折々で変わるファッションや街を歩いていると聞こえてくるいろいろな言語など異文化の香りが漂います。

私がご案内するツアーの参加者の方々もさまざまで、関東近県はもとより、遠くは北海道、九州からもいらっしゃいます。地元にお勤めの女性に「こんなに素敵な街だったとは知りませんでした」と喜んでいただいた時は、とてもうれしかったですね。

一度歩いてみませんか？　丸の内

NPO法人　大丸有エリアマネジメント協会では、ツアーリーダーが案内する丸の内ウォークガイドを実施している。「浪漫薫る街の散策」(火曜日実施)、「歴史色づく街の探訪」(木曜日実施)、「アートあふれる街のお散歩」(金曜日実施)とコースは3つ。いずれも、丸の内を再発見できるはずだ。
詳しくは、TEL.03-3287-5386かwww.ligare.jp へ。

TOPICS

「光都東京・LIGHTOPIA2009」開催

今年で4回目を迎える「光都東京(こうとときょう)・LIGHTOPIA(ライトピア)」が、12月21日(月)から29日(火)まで開催される。エグゼクティブ・アドバイザーに石井幹子氏を迎え、＜地球・環境・平和＞をコンセプトに、人と地球にやさしい多様な光の世界を展開。大丸有地区他を舞台に、「アンビエント・キャンドルパーク」「光のアート・インスタレーション　光雲(ひかりぐも)」「フラワーファンタジア」が実施される予定。

プロデュース・照明デザイン 石井幹子
写真は昨年のもの

「丸の内イルミネーション」開催

丸の内イルミネーション2008開催風景

大丸有地区では、11月12日(木)からイルミネーションやクリスマスの装飾、さまざまなイベントを展開する。有楽町と大手町を結ぶ丸の内仲通りでは、恒例の「丸の内イルミネーション」を開催。環境にも配慮した“シャンパンゴールド色”のLED約85万球が、街路樹を華やかに演出する。なお、このイルミネーションは、太陽光や風力などの自然エネルギーにより発電された「グリーン電力」が使用される。

期間：2009年11月12日(木)～2010年2月14日(日)
時間：午後5時～11時＊期間により点灯終了時間が異なる。
場所：丸の内仲通り　他

発行：大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/

＊本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
右記までお寄せください。e-mail:tcc@lares.dti.ne.jp

まち歩き携帯ナビ

「東京丸の内ユビキタス
ミュージアム」へようこそ